

## 1. 受賞記録(1995年～)

- 1995年：第15回木下賞(包装業界のグランプリ)  
 <主催・日本包装技術協会>  
 キッコーマンに対して。BIB(バックインボックス)用省資源型ダンボールのオクトポスト開発が評価された。
- 1997年：再資源化優良工場  
 <主催・クリーンウエイスト干葉>  
 野田工場に対して。産業廃棄物適正処理推進大会にて受賞。
- 1997年：緑化優良工場  
 <主催・北海道通商産業局>  
 千歳工場に対して。緑化が優良な工場として評価された。
- 1998年：第7回環境資源協力賞  
 <主催・日本食糧新聞>  
 キッコーマンに対して。地球環境の保全と資源保護に積極的に協力し成果をあげたことが評価された。
- 1999年：平成11年度農芸化学技術賞  
 <主催・日本農芸化学会>  
 キッコーマンに対して。ワイン副産物のブドウ種子から純度の高いポリフェノールを取り出したことが評価された。
- 1999年：WRAP(廃棄物削減賞)  
 <主催・カリフォルニア州環境保護局>  
 Kikkoman Foods, Inc.(KFI)カリフォルニア工場に対して。省エネと廃棄物の削減が評価された。
- 1999年：第9回流通システム大賞  
 <主催・日刊工業新聞>  
 キッコーマンに対して。物流支援ソフトが、流通サービス業界の情報化促進に優れていると評価された。
- 2001年：日経ニューオフィス推進賞  
 <主催・日本経済新聞社>  
 野田本社に対して。快適かつ機能的なオフィスづくりの普及促進を目的とした、ニューオフィス化促進推進運動で、省エネタイプの設計、雨水の有効利用などが評価された。
- 2001年：第23回農林水産大臣賞(資源環境保全部門)  
 <主催・農林水産省>  
 キッコーマンに対して。省エネ、廃棄物の再利用、EMS構築等、環境の維持・改善が評価され、食品産業優良企業の資源環境保全部門で受賞した。
- 2002年：第9回環境・省エネルギー建築賞  
 <主催・建築環境・省エネルギー機構>  
 野田本社に対して。省エネタイプの設計、ルーバで採光、事務棟内の空調、雨水の利用などが評価された。
- 2003年：2003年日経ものづくり特別賞  
 <主催・日本経済新聞社>  
 KFIに対して。生産性の向上、環境対策、国際競争力の向上、しょうゆの消費拡大が評価された。
- 2003年：第4回JIA環境建築賞優秀賞  
 <主催・日本建築家協会>  
 野田本社に対して。優れた発想と卓越した技術を
- もった建築で地球環境時代に新しい地平をひらくと評価された。
- 2004年：2003年度経済産業省産業技術環境局長賞  
 <主催・経済産業省>  
 研究本部に対して。しょうゆ油の養殖魚用飼料への利用が優秀な資源循環技術システムとして評価された。
- 2004年：平成15年度農芸化学会技術賞  
 <主催・日本農芸化学会>  
 研究本部に対して。ホタルルシフェラーゼの応用技術を、優れた商品開発に結びつけたことが評価された。
- 2004年：平成15年度環境経営格付(サステナビリティ格付け)優秀賞  
 <主催・環境経営格付機構>  
 キッコーマンに対して。優れたCSR経営の実践が評価され、他社の範となると認められた。
- 2004年：Pollution Prevention Award 受賞  
 <主催・Business Environment Resource Center>  
 KFIカリフォルニア工場に対して。廃棄物・副産物リサイクル努力、エネルギー・ランドフィル削減努力が評価された。
- 2004年：第23回工場緑化推進経済産業大臣賞  
 <主催・日本緑化センター>  
 千歳工場に対して。自然林など自然環境に配慮し維持管理し、地域に安らぎの場を提供したことが評価された。
- 2006年：日本醤油協会技術センター技術賞  
 <主催・日本醤油技術センター>  
 環境部分析センターに対して。しょうゆ製造に関する残留農薬一斉分析法の開発が評価された。
- 2009年：2009日本パッケージコンテスト食品包装部門賞  
 <主催・日本包装技術協会>  
 キッコーマンしょうゆの750ml・500mlの新容器が評価された。

## 2. 環境保全活動の歩み

1970年	8月 ● 公害対策委員会発足	2002年	6月 ● 環境部に改組 (環境企画管理グループ、分析センター)
1971年	1~12月 ● 全事業所の環境負荷量調査	2003年	3月 ● 海外主要工場の全てでISO14001認証取得
1972年	12月 ● 環境管理部(対策課、調査課)設置	2004年	6月 ● キッコーマングループ環境経営報告書 公表、小冊子発行
1976年	10月 ● 環境分析センター開設 (環境計量証明事業)	2005年	6月 ● 環境保全活動を整理し「環境保全活動事 例集(ケース・ファイル)」としてHP公開
1989年	11月 ● しょうゆ粕専用ボイラー稼動開始	7月 ● (社)鉄道貨物協会の「エコルールマーク」 認定	
1992年	3月 ● 環境保護推進本部設立 (公害防止から環境保護へ)	12月 ● 新エネルギー・産業技術総合開発機構、 産業環境管理協会、日本経済新聞社主催 「エコプロダクツ2005」に出展	
	4月 ● 環境保護統括委員会発足	12月 ● 「八都県市容器包装ダイエット宣言」発表	
	10月 ● 環境憲章制定、公表	2月 ● キッコーマングループ主要事業所全てで ISO14001認証取得	
1993年	3月 ● 環境に関する自主行動計画 (ボランティア・プラン)の策定	6月 ● キッコーマングループ社会・環境報告書 公表、冊子発行	
1995年	3月 ● 環境保護推進室に改組 (環境保護企画部、環境分析センター)	8月 ● 「チーム・マイナス6%」登録参加	
	6月 ● 内部環境監査開始 (製造/研究/病院)=14事業所対象	2008年	3月 ● 「容器包装に関する指針」決定
	9月 ● 世界環境経済人協議会(WBCSD)参加	8月 ● アジア生産性機構(APO)緑の生産性諮 問委員会(GP)参加	
1997年	5月 ● 野田第1工場 ISO14001認証取得	2009年	2月 ● 「Caring for Climate」に署名
	10月 ● 関連会社、海外工場、内部環境監査開始	10月 ● 分析センターが研究開発本部に移り、環 境・安全分析センターと改称	
1998年	11月 ● キッコーマン環境報告書公表 (インターネット)	10月 ● 環境マネジメント推進体制の改組	
1999年	8月 ● 環境保全統括委員会発足 (環境保護統括委員会改組)	2011年	5月 ● 生物多様性民間参画/パートナーシップ参加
	8月 ● 環境保全推進室に改組(環境企画部、 環境管理部、環境分析センター)	6月 ● キッコーマングループ(国内)ISO14001 一括認証取得	
2000年	2月 ● 地球温暖化ガスの削減目標決定、公表		
	2月 ● 廃棄物再生利用の目標設定		
	7月 ● キッコーマン環境報告書に環境会計を導入		
2001年	1月 ● 「グローバル・コンパクト」への参加		
	7月 ● キッコーマングループ環境報告書公表		